

米国農務省穀物等需給報告(2021年1月12日発表のポイント)

令和3年1月13日
大臣官房政策課食料安全保障室

米国農務省は、1月12日(現地時間)、2020/21年度の9回目の世界及び主要国の穀物・大豆に関する需給見通しを発表した。その概要は以下のとおり。

－2020/21年度の穀物の生産量は消費量を下回る見込み

1. 世界の穀物全体の需給の概要(見込み)

- ① 生産量: 27億1,430万トン(対前年度比 1.6%増)
- ② 消費量: 27億1,721万トン(対前年度比 1.8%増)
- ③ 期末在庫量: 8億678万トン(対前年度比 0.4%減)
期末在庫率: 29.7%(対前年度差 0.6ポイント減)

【主な品目別の動向】

小麦 : 世界の生産量は、中国やアルゼンチンで下方修正されたが、ロシアで上方修正(史上最高)されたこと等から、史上最高となる見通し。世界の消費量も、中国等で飼料用需要が増加することから上方修正され、史上最高となる見通し。世界の生産量が消費量を上回り、期末在庫量は史上最高となる見通し。なお、ロシアについては2月中旬以降、穀物の輸出枠と小麦の輸出税の設定が公表された。

- ① 生産量: 7億7,264万トン(対前年度比 1.1%増)・・・豪州、ロシア、インド、カナダ等で増加、EU、ウクライナ、米国、アルゼンチン等で減少
- ② 消費量: 7億5,954万トン(対前年度比 1.7%増)・・・中国、インド等で増加、EU等で減少
- ③ 期末在庫量: 3億1,319万トン(対前年度比 4.4%増)・・・中国、インド、ロシア、豪州等で増加、米国、EU等で減少(前月に比べ中国で下方修正)
期末在庫率: 41.2%(対前年度差 1.1ポイント増)

とうもろこし : 世界の生産量は、アルゼンチンやブラジルでの乾燥等による単収の引き下げに加え、米国の単収や収穫面積の引き下げより下方修正されたが、依然として史上最高となる見通し。世界の消費量は、米国で下方修正されたが、前年度より増加する見通し。世界の生産量が消費量を下回り、期末在庫量は前年度より減少する見通し。

- ① 生産量: 11億3,389万トン(対前年度比 1.6%増)・・・米国、ブラジル等で増加、ウクライナ、アルゼンチン、EU等で減少(前月に比べ米国で下方修正)
- ② 消費量: 11億5,306万トン(対前年度比 1.7%増)・・・中国等で増加、米国等で減少(前月に比べ米国で下方修正)
- ③ 期末在庫量: 2億8,383万トン(対前年度比 6.3%減)・・・米国、中国等で減少(前月に比べ米国で下方修正)
期末在庫率: 24.6%(対前年度差 2.1ポイント減)

コメ(精米) : 世界の生産量は、中国等で上方修正され、史上最高となる見通し。世界の消費量は、中国等で上方修正され、史上最高となる見通し。世界の生産量は消費量を上回り、期末在庫量は、中国等で上方修正され、史上最高となる見通し。

- ① 生産量: 5億317万トン(対前年度比 1.4%増)
- ② 消費量: 5億197万トン(対前年度比 1.4%増)・・・中国等で増加
- ③ 期末在庫量: 1億7,950万トン(対前年度比 0.7%増)
期末在庫率: 35.8%(対前年度差 0.3ポイント減)

2. 世界の大豆需給の概要(見込み)

世界の生産量は、中国で上方修正も、米国に加えアルゼンチンで乾燥の影響により下方修正されたため下方修正された。一方、世界の消費量は、中国等で飼料需要が回復すること等により増加することから、前年度より増加する見通し。期末在庫量は前年度より減少する見通し。

- ① 生産量: 3億6,100万トン(対前年度比 7.3%増)・・・米国、ブラジル等で増加(前月に比べ中国で上方修正、アルゼンチンで下方修正)
- ② 消費量: 3億6,982万トン(対前年度比 4.3%増)・・・中国等で増加
- ③ 期末在庫量: 8,431万トン(対前年度比 11.6%減)・・・米国等で減少(前月に比べアルゼンチンで下方修正)
期末在庫率: 22.8%(対前年度差 4.1ポイント減)

世界の穀物・大豆の需給動向

(米国農務省2021年1月12日発表)

【穀物】

(単位：百万ト)

項目	年度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			(参考) 2012/13
				(予想)	前年度比 (期末在庫率は「前年度差」)	前月差	
全体							
生産量		2,626.21	2,671.70	2,714.30	1.6%	▲ 8.4	2,295.7
消費量		2,640.55	2,669.09	2,717.21	1.8%	▲ 1.6	2,284.3
期末在庫量		807.08	809.69	806.78	▲ 0.4%	▲ 7.5	480.9
期末在庫率		30.6%	30.3%	29.7%	▲ 0.6	▲ 0.3	21.1%
小麦							
生産量		730.90	763.91	772.64	1.1%	▲ 1.0	660.6
消費量		734.72	746.98	759.54	1.7%	1.8	680.0
期末在庫量		283.16	300.09	313.19	4.4%	▲ 3.3	182.1
期末在庫率		38.5%	40.2%	41.2%	1.1	▲ 0.5	26.8%
粗粒穀物							
生産量		1,398.00	1,411.40	1,438.49	1.9%	▲ 9.3	1,159.1
消費量		1,421.15	1,427.14	1,455.69	2.0%	▲ 4.9	1,139.4
期末在庫量		347.04	331.30	314.09	▲ 5.2%	▲ 4.7	175.8
期末在庫率		24.4%	23.2%	21.6%	▲ 1.6	▲ 0.3	15.4%
とうもろこし							
生産量		1,123.77	1,116.41	1,133.89	1.6%	▲ 9.7	898.8
消費量		1,144.49	1,133.45	1,153.06	1.7%	▲ 5.0	877.3
期末在庫量		320.04	303.01	283.83	▲ 6.3%	▲ 5.1	144.8
期末在庫率		28.0%	26.7%	24.6%	▲ 2.1	▲ 0.3	16.5%
コメ(精米)							
生産量		497.32	496.40	503.17	1.4%	2.0	476.1
消費量		484.69	494.98	501.97	1.4%	1.5	464.8
期末在庫量		176.89	178.31	179.50	0.7%	0.5	123.0
期末在庫率		36.5%	36.0%	35.8%	▲ 0.3	▲ 0.0	26.5%

【大豆】

項目	年度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			(参考) 2012/13
				(予想)	前年度比	前月差	
生産量		361.04	336.47	361.00	7.3%	▲ 1.1	269.0
消費量		343.79	354.56	369.82	4.3%	0.1	265.2
期末在庫量		112.80	95.39	84.31	▲ 11.6%	▲ 1.3	58.1
期末在庫率		32.8%	26.9%	22.8%	▲ 4.1	▲ 0.4	21.9%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(January 12, 2021)

「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」

注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、コメ(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。

2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

3) 期末在庫率(%) = 期末在庫量 × 100 / 消費量

4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6～5月)、とうもろこし(9～8月)、コメ(8～7月)、大豆(9～8月)]

5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。

なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。

6) (参考)は、直近の価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。

7) なお、「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」 については、公表された最新のデータを使用している。

米国の穀物・大豆の需給動向
(米国農務省2021年1月12日発表)

【穀物】

(単位：百万ト)

項目	年度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			(参 考) 2012/13
				(予想)	前年度比 (期末在庫率は 「前年度差」)	前月差	
全体							
生産量		436.32	417.89	431.48	3.3%	▲ 8.1	353.0
消費量		357.57	355.83	350.74	▲ 1.4%	▲ 2.9	317.1
輸出量		83.45	79.77	102.14	28.0%	▲ 2.2	51.6
期末在庫量		91.28	80.73	66.43	▲ 17.7%	▲ 5.0	44.2
期末在庫率		20.7%	18.5%	14.7%	▲ 3.9	▲ 0.9	12.0%
小麦							
生産量		51.31	52.58	49.69	▲ 5.5%	0.0	61.3
消費量		29.99	30.56	31.38	2.7%	0.7	37.8
輸出量		25.50	26.28	26.81	2.0%	0.0	27.5
期末在庫量		29.39	27.99	22.76	▲ 18.7%	▲ 0.7	19.5
期末在庫率		53.0%	49.2%	39.1%	▲ 10.1	▲ 1.7	29.9%
粗粒穀物							
生産量		377.91	359.43	374.57	4.2%	▲ 8.2	285.3
消費量		323.02	320.68	314.29	▲ 2.0%	▲ 4.1	275.5
輸出量		54.97	50.51	72.35	43.2%	▲ 2.2	20.7
期末在庫量		60.47	51.83	42.45	▲ 18.1%	▲ 3.9	23.5
期末在庫率		16.0%	14.0%	11.0%	▲ 3.0	▲ 0.8	7.9%
とうもろこし							
生産量		364.26	345.96	360.25	4.1%	▲ 8.2	273.2
消費量		310.45	309.51	305.45	▲ 1.3%	▲ 3.8	263.0
輸出量		52.48	45.17	64.77	43.4%	▲ 2.5	18.5
期末在庫量		56.41	48.76	39.42	▲ 19.2%	▲ 3.8	20.9
期末在庫率		15.5%	13.7%	10.6%	▲ 3.1	▲ 0.8	7.4%
コメ(精米)							
生産量		7.11	5.88	7.23	23.0%	0.1	6.3
消費量		4.57	4.59	5.08	10.7%	0.5	3.8
輸出量		2.97	2.99	2.99	0.0%	▲ 0.0	3.4
期末在庫量		1.42	0.91	1.22	34.1%	▲ 0.4	1.2
期末在庫率		18.8%	12.0%	15.1%	3.1	▲ 6.0	16.1%

【大豆】

項目	年度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			(参 考) 2012/13
				(予想)	前年度比	前月差	
生産量		120.52	96.67	112.55	16.4%	▲ 1.0	82.8
消費量		60.40	61.77	63.29	2.5%	▲ 0.2	48.6
輸出量		47.68	45.78	60.69	32.6%	0.8	36.1
期末在庫量		24.74	14.28	3.80	▲ 73.4%	▲ 1.0	3.8
期末在庫率		22.9%	13.3%	3.1%	▲ 10.2	▲ 0.8	4.5%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(January 12, 2021)
「Oilseeds: World Markets and Trade」、「PS&D」

注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、コメ(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。

2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

3) 期末在庫率(%) = 期末在庫量 × 100 / (消費量 + 輸出量)

4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6～5月)、とうもろこし(9～8月)、コメ(8～7月)、大豆(9～8月)]

5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。

なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。

6) (参考)は、直近の価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。

7) なお、「Oilseeds: World Markets and Trade」、「PS&D」については、公表された最新のデータを使用している。

(参考1)

世界の穀物の価格動向 (2020年)

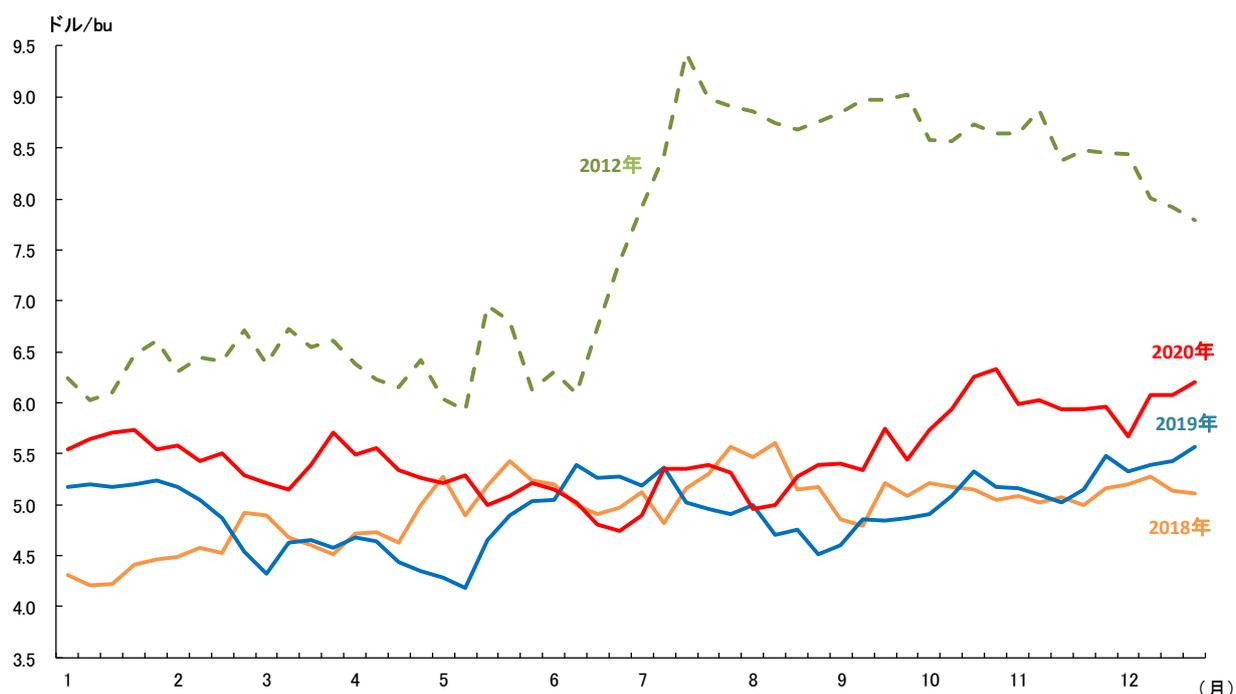
- 小麦 : 6.39 ドル/bu (前年同時期の価格 : 5.55 ドル/bu)
(価格は、シカゴ商品取引所における2021年1月第1週末(セツルメント)。)

2020年1月に入り、乾燥による豪州の減産見通し、アルゼンチンの輸出税の引き上げ等から5ドル/bu台後半まで値を上げたものの、2019/20年度の潤沢な供給に加え、2020/21年度の世界的な豊作見通しから3月半ばに5ドル/bu前後に値を下げた。3月半ばから後半にかけて、ロシアの輸出枠設定や市場予想を下回る米国の四半期在庫報告及び作付意向面積から5ドル/bu台後半に一時値を上げたものの、4月の低調な輸出成約高や、とうもろこし価格の下落、欧州、黒海地域での降雨、米国農務省5月需給報告の市場予想を上回る世界、米国の期末在庫量等、6月の米国産冬小麦の収穫の進展等から6月下旬には4ドル/bu後半まで値を下げた。

7月上旬以降、EU、ロシアの生産量の減少見込みから一時5ドル台前半に値を上げたものの、米国産春小麦の作柄改善やロシアの生産量の改善見通しから、8月上旬から中旬にかけて4ドル/bu台後半まで値を下げた。

8月中旬以降9月末にかけ、アルゼンチンの乾燥懸念やフランスの輸出量の減少見込み、米国産の輸出増加期待、9月末の米国農務省四半期在庫報告等の市場予想を下回る在庫量等から5ドル/bu台後半まで上昇、さらに、10月に入り、ロシア、アルゼンチンに加え、米国の冬小麦生産地帯での乾燥懸念から、10月下旬にかけ6ドル/bu前半に値を上げた。

10月下旬から12月上旬にかけ、11月の米国農務省穀物等需給報告での米国産小麦の期末在庫見通しの下方修正等により下支えされたものの、米国、黒海地域の小麦生産地帯での降雨、ロシアの生産量の上方修正等から5ドル/bu半ばに値を下げた。12月中旬以降、ロシアの2021年2月15日からの小麦を含む穀物輸出枠設定及び小麦輸出税賦課の決定、それによる米国産小麦の輸出改善期待や、大豆、とうもろこしの上昇につれて値を上げ、12月下旬現在、6ドル/bu前半で推移。



注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移。

- とうもろこし：4.96 ドル/bu（前年同時期の価格：3.87 ドル/bu）
（価格は、シカゴ商品取引所における2021年1月第1週末（セツルメント）。）

2020年1月以降、アルゼンチンの輸出税を引き上げも、米国農務省1月需給報告での市場予想上回る米国の生産量や、市場が米中通商協議の内容を弱材料と捉えたこと、南米の豊作見込み等から、2月下旬には3ドル/bu半ばに値を下げた。

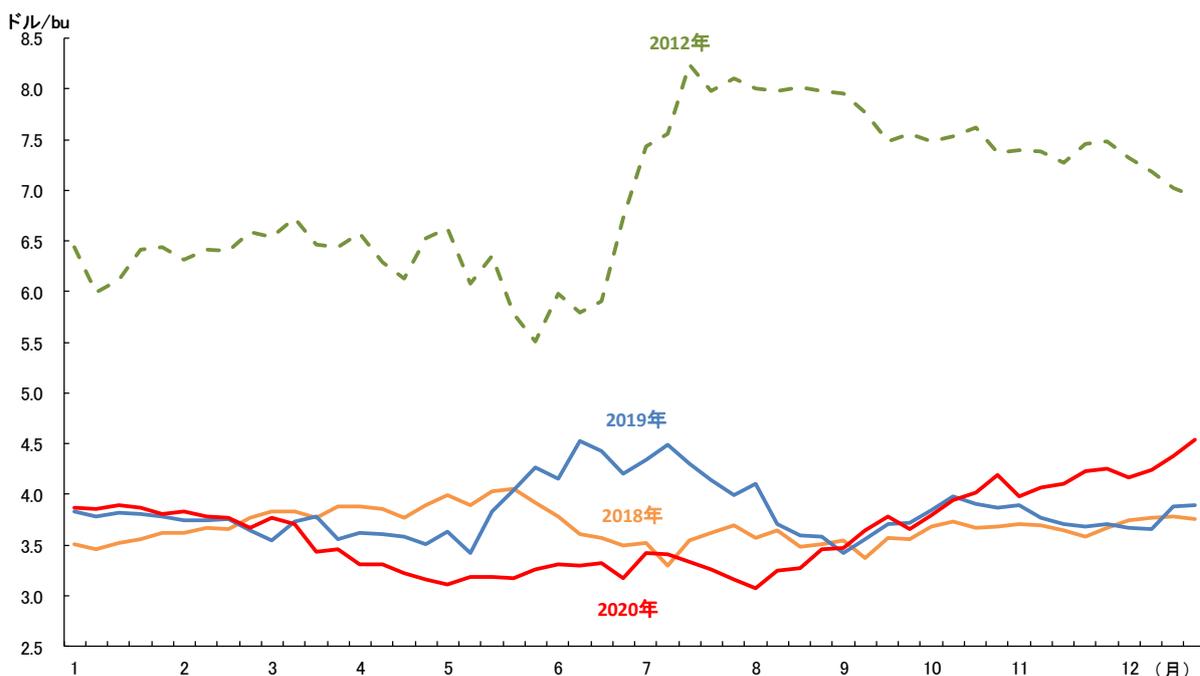
3月上旬に、原油価格等の上昇から一時3ドル/bu後半に値を上げたものの、その後は、市場予想を上回る米国の作付意向面積や、原油価格下落によるエタノール需要の減退、新型肺炎拡大で操業を停止した米国内畜産業の飼料需要の減退懸念等から4月下旬に3ドル/bu前後に値を下げた。

5月以降、順調な作付け進捗等による米国の豊作見込や、新型肺炎拡大に伴う需要の減少懸念も、原油価格の復調によるエタノールの生産量の回復や、6月末の市場予想を大幅に下回る米国農務省作付面積報告等から、7月上旬には3ドル/bu台半ばまで値を戻した。

その後8月にかけて、良好な天候による米国産の豊作予想から3ドル/bu前後まで値を下げたものの、8月上旬以降から9月末かけ、米国中西部の乾燥懸念、米国産の輸出期待、9月末の米国農務省四半期在庫報告での市場予想を下回る在庫量から3ドル/bu台後半に値を上げた。

さらに10月下旬にかけて、米国産とうもろこしの輸出成約の増加、南米の乾燥天候による作付け遅れ等から4ドル/bu台前半に値を上げたものの、10月末から11月初めにかけて新型コロナウイルス感染拡大や米国大統領選の混戦等から4ドル/bu前後に一旦値を下げた。

11月上旬以降、11月の米国農務省穀物等需給報告での市場予想を下回る期末在庫見通し、米国産とうもろこしの輸出成約の増加、南米の乾燥天候による生育懸念、アルゼンチンの2021年2月28日までの輸出停止措置から値を上げ、12月末現在4ドル/bu台半ばで推移。



注：シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格（セツルメント）である。
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移

● コメ：545 ドル/トン（前年同時期の価格：448 ドル/トン）

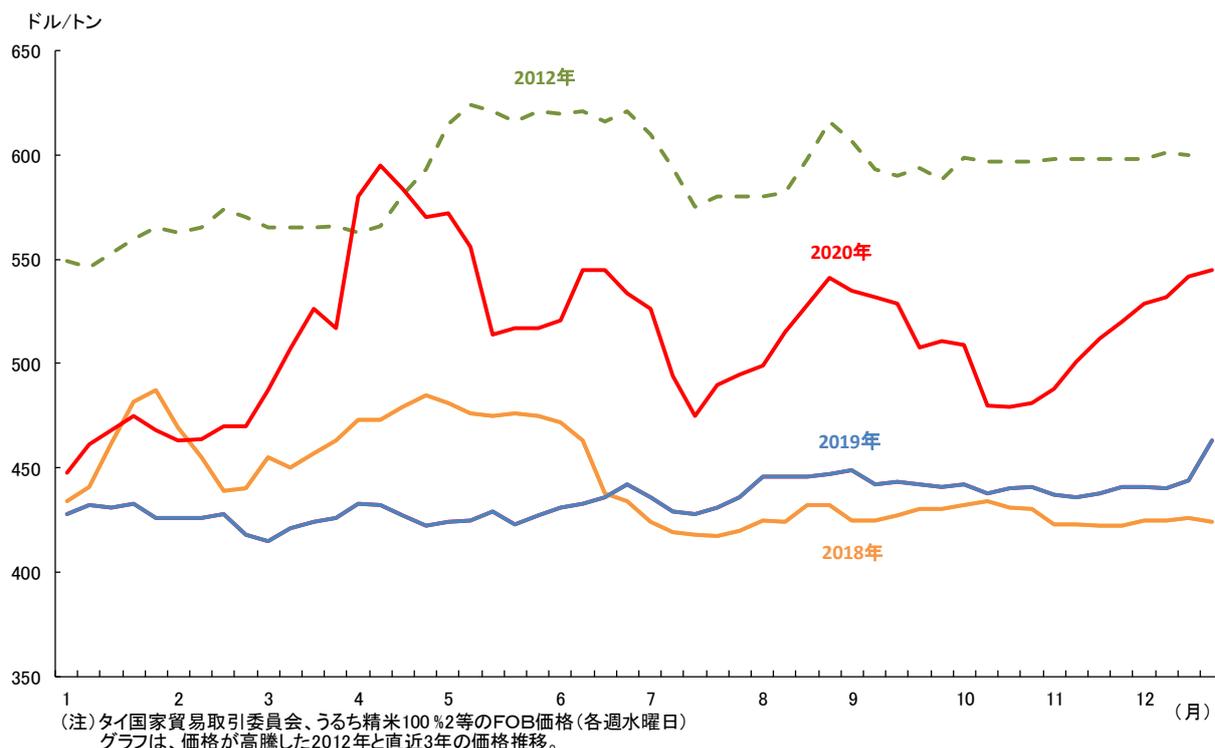
（価格は、タイ国家貿易取引委員会における2021年1月の第1水曜日のFOB価格が未公表のため、2020年12月23日（水）の価格。）

2020年1月以降、タイ北部での降雨不足による乾季米の減産による、タイ産米の減少見込みから、1月下旬に470ドル/トン台半ばで値を上げた。

2月に入り、一時、460ドル/トン台前半まで値を下げたものの、アフリカ等の輸入需要やタイ北部での降雨不足による乾季米の減産、新型肺炎拡大に伴う食料確保を目的としたベトナムの輸出枠設定等から、4月上旬には590ドル/トン台半ばまで値を上げた。その後、ベトナムの5月からの輸出枠解除で、ベトナム産やインド産に需要がシフトしたこと等から5月中旬には510ドル/トン台半ばまで値を下げたものの、アフリカ、フィリピン等の輸入需要、降雨不足によるタイの雨季米への影響懸念から、6月半ばに540ドル/トン台半ばまで再び値を上げた。

6月半ば以降、新穀の乾季米の出回り等から値を下げ、7月半ばに470ドル/トン台半ばとなったものの、7月半ばから8月半ばにかけて、パーツ高や、灌漑用水の利用制限による雨季米の作付遅れによる供給不足懸念から540ドル/トン台前半に値を上げた。

その後、パーツ安や新規輸出需要の低迷、タイ産新穀の出回りの開始から、10月下旬にかけて一時470ドル/トン台後半に値を下げた。10月下旬以降、輸出用コンテナ不足により、輸出用米の調達が減少しつつあるも、パーツ高や、ベトナム産の一時的な供給不足と価格上昇でタイ産への輸出需要が高まったことから値を上げ、12月下旬現在、540ドル/トン台半ばで推移。



● 大豆：13.76ドル/bu（前年同時期の価格：9.31ドル/bu）
 （価格は、シカゴ商品取引所における2021年1月第1週末（セツルメント）。）

2020年1月以降、南米の豊作見通しに加え、米中通商協議の第1次合意に中国側の大豆の追加関税撤廃が盛り込まれなかったこと等から1月下旬に8.7ドル/buに値を下げた。

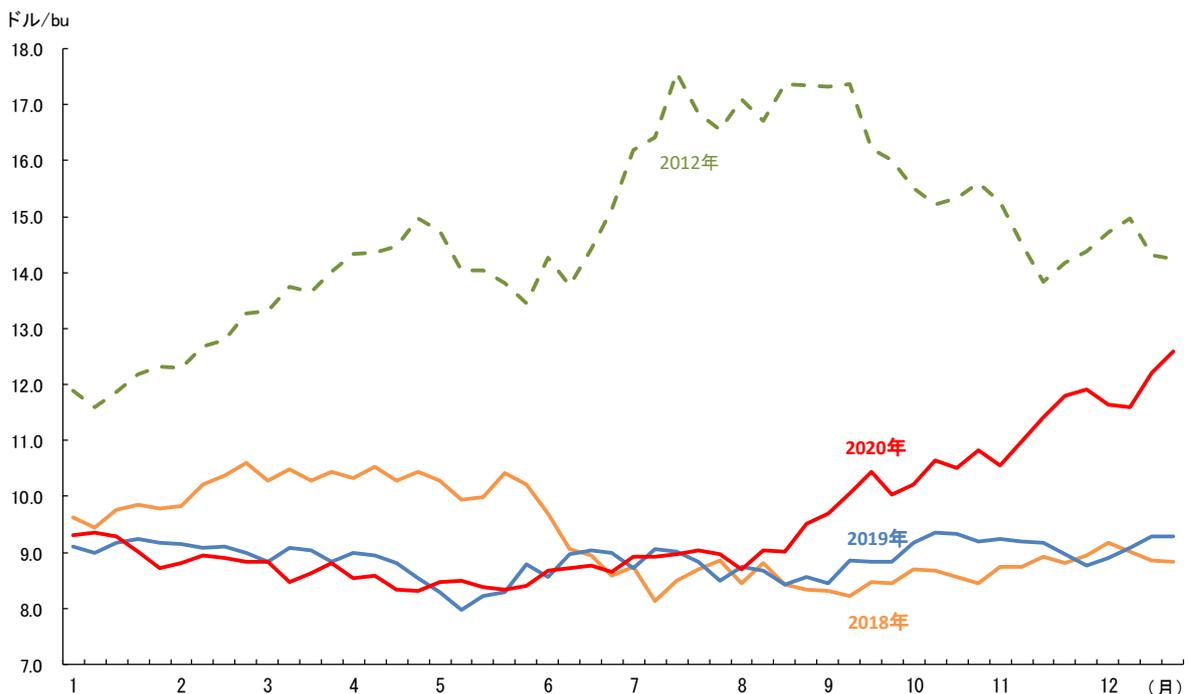
2月に入り、中国による米国産大豆の追加関税の引き下げや輸入業者向けの免税措置を公表したこと、アルゼンチンの輸出税引き上げの公表から2月半ばと3月初めに一時9ドル/bu近くまで上昇したものの、米国農務省3月需給報告での南米の生産量の上方修正や、ブラジルの収穫開始による米国産の輸出減退懸念から、3月半ばに8ドル/bu台前半まで値を下げた。

3月下旬に、南米の物流遅延懸念や、市場予想を下回る米国の作付意向面積から一時8ドル/bu台後半まで値を上げたものの、4月下旬にかけ、ブラジル産との競合による米国産の輸出減退懸念や、新型コロナウイルス拡大により操業が停止した米国内畜産業の飼料需要の減退懸念等から、8ドル/bu台前半まで値を下げた。

5月上旬以降、米国の順調な作付け進捗の一方で、中国による米国産大豆の買付期待や原油価格の復調、6月末の市場予想を下回る米国農務省の作付面積報告から7月末に8ドル/bu台後半に上昇。さらに、8月中旬から9月中旬にかけ、米国中西部の高温乾燥懸念、中国による米国産の買付期待等から、10ドル/bu台半ばに値を上げた。

9月下旬に収穫の進展から一時9ドル/bu台後半に値を下げたものの、9月末の米国農務省四半期在庫報告での市場予想を下回る在庫量から9月末には、10ドル/bu台前半まで値を上げた。さらに、米国産大豆の中国向け輸出成約の増加、南米の乾燥天候による作付け遅れ等から、10月下旬には10ドル/bu台後半に値を上げたものの、10月末にかけて新型コロナウイルス感染拡大や米国大統領選の混戦等から10ドル/bu台前半まで一旦値を下げた。

11月初旬以降、11月上旬の米国農務省穀物等需給報告での市場予想を下回る期末在庫見通し、米国産大豆の中国向け輸出成約の増加、南米の乾燥天候による生育懸念、旺盛な米国内の大豆压榨需要、アルゼンチンのストライキ等から値を上げ、12月下旬現在、12ドル/bu台半ばで推移。



注：シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格（セツルメント）である。
 グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移。

(参考2)

1 為替レート(対ドル円相場)

単位:円/ドル

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
103.39	93.61	87.75	79.76	79.79	97.71	105.79	121.09	108.77	112.13	110.40
2019年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
108.75	110.36	111.21	111.66	109.83	108.06	108.22	106.27	107.41	108.12	108.86
12月	2020年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
109.18	109.34	109.96	107.29	107.93	107.31	107.56	106.78	106.04	105.74	105.24
11月	12月	2021年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
104.40	103.82									

出典：為替相場(東京インターバンク相場) 東京市場、中心相場 スポット・レート
日本銀行; 主要時系列統計データ表 <http://www.stat-search.boj.or.jp/>
年別は、日次データの平均値。月別は、月次データの月中平均。

2 海上運賃(フレート)

単位:ドル/トン

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
93.65	50.71	63.59	54.88	49.18	46.63	44.35	30.30	27.92	38.48	46.42
2019年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
45.25	40.00	40.80	41.75	41.25	39.75	51.13	50.56	51.02	45.78	37.60
12月	2020年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
37.68	39.40	36.42	35.87	31.16	28.95	34.73	42.25	45.15	40.86	41.51
11月	12月	2021年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
40.94	42.39									

出典：米国(ガルフ)ー日本間、Heavy Grains, 50,000トン以上
国際穀物理事会(International Grains Council); Ocean Freight Rates, 「World Grain Statistics」, 「IGC
Grain Market Indicators」
月別は、毎日価格の平均値。

3 原油価格(WTI:米国ウエスト・テキサス・インターミディエート)

単位:ドル/バレル

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
99.65	61.80	79.53	95.12	94.21	97.97	93.00	48.80	43.32	50.95	64.85
2019年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
51.55	54.98	58.17	63.87	60.87	54.71	57.55	54.84	56.97	54.01	57.07
12月	2020年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
59.80	57.53	50.54	30.45	16.70	28.56	38.31	40.77	42.39	39.63	39.55
11月	12月	2021年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
41.35	46.85									

出典：内閣府経済財政分析統括官付海外担当「海外経済データ -月次アップデート-」令和2年12月, 120頁
但し、2020年12月は、米国エネルギー情報局(U.S. Energy Information Administration)「Weekly Petroleum
Status Report」の日次データの平均値。